Pre-Presidents of the Imperial Railway Club.

Mr. S. Kawakami

川上操六氏(故人)

協會創立當時の鐵道は軍事上非常に重きを置いたが故に時の參謀總長たりし氏を初期の會長に推したのであつた。

Mr. s. Matsumoto

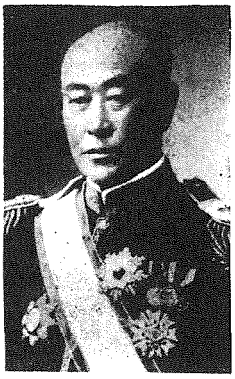
松本莊一郎氏(故人)

副會長として初期の創立功勞者、時の鐵道作業局長官であつた、米國パツワロー大學の出身。

Mr. G. Kodama

兒玉源太郎氏(故人)

武人會長として最も平民的な人格者で且つ會員の人望最も高かつた人である。



Mr. M. Inouye

井上　勝氏(故人)

東京横濱間の我國最初の鐵道工事主任技師たりし所謂鐵道の守として世に知られた人、別項傳記參照。

帝國鐵道協會創立から現在まで

明治三十一年こいへば日本の鐵道ももうかなりの進歩を認められた、この頃に鐵道關係者の間に何か一つの統一的相互機關を要求する氣運が泛んで來た、これを常に提唱力說してゐた人々は時の鐵道作業局長官松本莊一郎氏を初め前の鐵相仙石貢氏、現在東京地下鐵道社長たる野村龍太郎氏、それから平井晴二郎氏、久野知義氏等、時の官海方面の人々こ山陽鐵道社長中上川彦次郎氏、北越鐵道社長渡邊嘉一氏、笠井愛次郎氏、犬塚勝太郎氏中村雄次郎氏等の民間有力者であつた。これら同志の人々が協議の結果、遂に明治三十一年十一月二十八日帝國鐵道協會が成立するに至つたのである。

そして松本莊一郎氏、渡邊洪基氏の兩氏が最初の副會長こして選ばれた。翌年一月陸軍大將川上操六氏を會長に推薦した。だが川上會長はその後半歲を出でざる同年五月、早くも病沒せられた。その後暫く會長は空席こして、松本渡邊兩副會長を以て會務萬端を處理して、明治三十七年六月に至つた。この間相當の動靜があつた。先づ本協會創立以前關西方面の同志等相集り大阪鐵道協會を形成してゐたのを本協會に合併した、それは明治三十二年七月だつた。明治三十四年五月には副會長渡邊洪基氏が長逝せられ、この後任こして陸軍中將曾我祐準氏を迎へた、同年七月には事務所を京橋區日吉町十二番地に設けた。翌々年三月には副會長松本莊一郎氏また逝去された。かうした人事無常の裡に、會の組織變更の議が起り、三十七年五月社團法人組織こした。これは本協會のプロセツス中、大きな一轉期こ言はねばならぬ。而して久しく空席だつた會長に、時の陸軍大將兒玉源太郎伯を推薦した。

この兒玉會長在任中の尖端的事蹟こしては明治三十九年五月名古屋に開かれた第三回定時總會を劃して、全國鐵道五千哩開通記念祝賀會を開催したここであつた。

だが兒玉會長在任二年餘に薨去された。これより先、明治三十六年五月松本副會長長逝

Pre-Presidents of the Imperial Railway Club.

Mr. M. Terauchi
寺内正毅伯(故人)
謹嚴なる武人歴代會長中最も在任の長きは協會の幹部並に一般會員間に人望あつた故である。

Mr. S. Okuma
大隈重信侯(故人)
武人會長の後をついで政治家たる大隈侯の會長たるは又一の偉彩である、侯の雄辯は總會には必ず出席して講演するの例であつた。

Mr. R. Nomura
野村龍太郎氏
溫厚の君子にして德望が高い、鐵道技術家として最も多くの部下を有し、學者にして、詩、書、和歌、謠曲何も堂に入る。

Mr. K. Watanabe
渡邊嘉一氏
英國ケンブリツヂ大學出身の技術家で世故に通曉し下情を詳かにし且つ統御力に富む人である。

後は、古市公威氏、牛場卓藏氏、仙石貢氏、原口要氏、平井晴二郎氏、末延道成氏等の諸先輩が交々副會長となつて會務を處理してゐたのである。

明治四十二年五月、子爵井上勝氏を會長に推した、氏は我が鐵道界の元勳であることは誰でも知つて居やう。

井上氏會長たること一年、即ち明治四十三年五月、歐州鐵道視察の途次ロンドンに客死せられて終つた。

明治四十四年二月、臨時評議員會を開いて陸軍大將寺内正毅伯を會長推薦の議として諮つた所、滿場一致を以て可決した。寺内會長の治下に於ては、鐵道關係の各種研究調査等遺憾なく、其の本質的職能を完了し、大正二年七月現在の本會々館新築を企圖し、同五年一月會館竣工を了して移轉の運びとなつた、だが寺内會長は大正八年九月、惜しくも薨去された。

大正八年十二月大隈重信侯を推薦、會長とした。翌九年早々大阪市長の依頼により大阪市高速度交通調査を決定した。大隈侯會長たること二年を出でざる幾何もなく大正十一年一月萬人哀愁の内に薨去された。

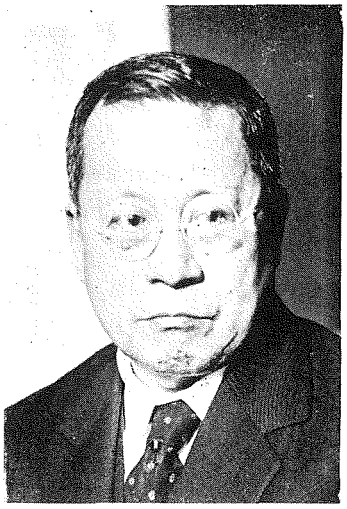
同年、野村龍太郎氏會長となつた、氏の會長たりし間、かの大震災に遭遇した。震災の翌月、東京市高速度鐵道の速成、地方鐵道會社に對する資金融通、鐵道建設改良工事等に關する件等々を、時の總理大臣、關係各大臣等に對し建議をした。

野村氏會長の滿期引退後は渡邊嘉一氏が會長となつた。賛助員の復活、本會會報の復活會員徽章の制定、定款改正等は渡邊氏會長の間に行れた事であつた。

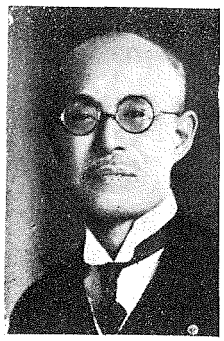
大正十四年五月、國澤新兵衛氏會長に推され今日に至つて居る、其間國際商業會議所加入、會館增築調査、東京横濱附近交通調査完了、勞働立法の調査、萬國動力會議加入等、更に朝鮮に於ける鐵道普及促進に關する調査結了と共に之を内閣、陸軍參謀總長、朝鮮總督に建議、これは同年三月貴衆兩院議員より建議案として上提されて可決した。九月には新館增築調査結了と共に工事を三菱會社地所部へ委託した。而して昭和三年五月二十日新館增築竣成、乃ち定時總會を兼ねて其落成記念並に本會創立三十年記念祝賀を催すに至た。

Vice President of the
I. R. C. Mr. U. Beppu
帝國鐵道協會副會長
別府丑太郎氏

Vice President of the
I. R. C. Mr. Nakagawa
帝國鐵道協會副會長
中川正左氏



President of the I. R. C.
Mr. S. Kunisawa
帝國鐵道協會會長
國澤新兵衛氏

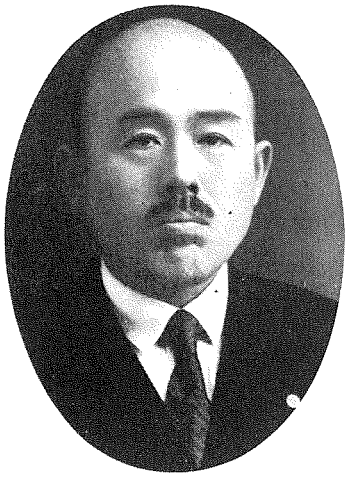


Pre-Chief Secretary
Mr. R. Umino.
前書記長(現評議員)
海野力太郎氏

會長國澤博士は溫厚なる人格者である、帝大土木科出の技術家にして會長の任を重ぬる事四回に及ぶを見ても其德望の程を想像出來る、鐵道作業局工務部より滿鐵總裁もやり、一度は鄉里高知縣より衆議院議員に當選した事もある、趣味に廣く特に謠曲、繪畫、和歌を得意とする。

Chief Secretary
Mr. M. Ota.
書記長
太田峰尾氏

Members of Director Board of the Imperial Railway Club.

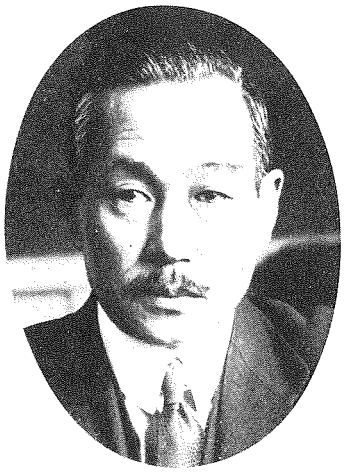


Mr. S. Ozawa

帝國鐵道協會常任委員

小澤信之甫氏

雨宮敬次郎氏の門下にして苦學力行の人、今は雨宮製作所其他の社長、東京商工會議所議員等。

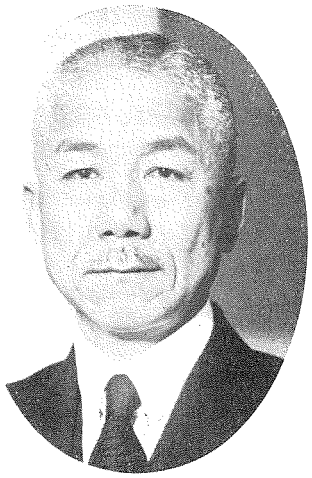


Mr. M. Fukutomi

帝國鐵道協會常任委員

福富正男氏

現に鐵道省監督局長である、東京帝大出身の法學士。



Mr. W. Take

帝國鐵道協會常任委員

武和三郎氏

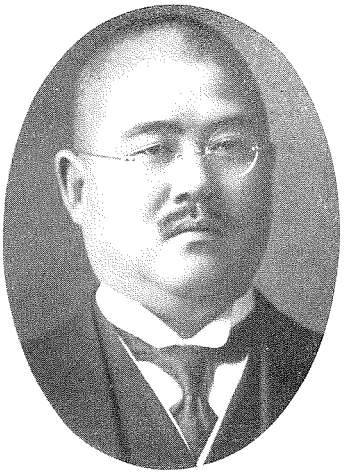
元山陽鐵道の出身にして今は自ら工場を有し且つ朝鮮鐵道、東京瓦斯會社外數會社の重役。

Mr. M. Taniguchi

帝國鐵道協會常任委員

谷口守雄氏

私設鐵道の出にして今は東京瓦斯會社外數會社の重役である



Mr. K. Goto

帝國鐵道協會

五島慶太氏

元鐵道省參事、帝大出身の法學士、今は東京横濱電鐵、目黒蒲田電鐵の專務の外數會社の重役。